

ICTを用いたラーニングストーリーの 作成・活用に関する研究

＜研究者＞堀 科(代表), 本村真弓, 渡部晃正, 鵜殿篤
白鳥綾佳, 古田千明, 杉田星

東京家政大学ヒューマンライフ支援機構
プロジェクト研究助成費

本研究の目的と方法

1. 本研究の背景

- ▶ Society5.0社会*1の到来による文部科学省のGIGAスクール構想*2
 - ⇒教育のICT(情報通信技術 Information and Communication Technology)化の推進
- ▶ 幼児教育においては、学童期への緩やかな接続
 - ⇒情報機器の補完的な活用を推奨*3
- ▶ 保育実践においては、
 - ⇒マネジメントから園務改善ツール(スマート保育)としてのICTの普及
 - ⇒子ども理解ならびに子どもの学びを可視化する手段としてのICT*4*5

保育ドキュメンテーション(活動の記録・学びの履歴;ラーニングストーリー*6)

【引用文献】 *1内閣府https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/ *2文部科学省(2019)教育の情報化~GIGAスクール構想の実現に向けて~ 文部科学白書 *3幼稚園教育要領(2018) *4北野幸子(2018)これからの幼児教育とICTの活用 神戸大学 *5岩田恵子・大豆生田啓友(2018)保育の可視化のプロセス 玉川大学学術研究所紀要 第24号 pp.1-13 *6マーガレット・カー著(2013)大宮勇雄・鈴木佐喜子訳 保育の場で子どもの学びをアセスメントする-「学びの物語」アプローチ理論と実践- ひとなる書房

2

2. 本研究の目的

本研究の目的は、保育ドキュメンテーションの作成・配信にICTを活用し、その効果と課題を明らかにすることである。

今回、幼稚園型認定こども園 東京家政大学附属みどりヶ丘幼稚園においてデジタル配信ツールを用いて、保護者に保育ドキュメンテーションを配信し、保育の可視化を試みた。そして、その効果を探るために保護者を対象とした意識調査を実施した。さらに情報機器の保育にもたらす補完的な役割について併せて検討するため、タブレット端末を各クラスに設置し、その望ましい活用方法について検討した。

3

3. 研究方法と倫理的配慮

(1) 研究方法

- ①保育ドキュメンテーションの配信とタブレット端末の活用
各クラスに1台のタブレット端末を配置、園児の遊びを通じた学びを記録・補完的活用
記録したデータを保育ドキュメンテーションとして保護者に定期的に配信
利用アプリ: コドモンとStorypark (年長組のみ)
- ②アンケートの実施; 「ICT活用に対する保護者の意識調査」
調査: オンライン調査(Googleフォーム)
対象者: みどりヶ丘幼稚園保護者



(2) 倫理的配慮

調査対象となる保護者には研究の趣旨を書面で説明し、同意書に署名をいただいた。
本手続きについては、東京家政大学研究倫理委員会において承認を受けた(承認番号: 2023-2)。

4

コドモン



保護者への
配信画面



ストーリー
パーク



6

実践事例 保育ドキュメンテーション

(1) 保育ドキュメンテーションの実践事例

砂場を一周・・・川ができた

砂場の山の頂上に、細い道を作っていただきました。Rくん、Yくんも手紙に書いてくれました。

実習行くと道が一足しています。暑くて、改めてその大きさに驚いてビックリ!

水を流すことに最初は驚きながらも楽しんでいました。せつせつと流れていく様子を見てみんなの表情も変化してきていました。水が流れていく様子を見てみんなの表情も変化してきていました。水が流れていく様子を見てみんなの表情も変化してきていました。

Yくん、ジワジワの入れ方を試してみたら、砂の山が崩れてしまいました。お水が流れていく様子を見てみんなの表情も変化してきていました。水が流れていく様子を見てみんなの表情も変化してきていました。

砂の山の頂上に、細い道を作っていただきました。Rくん、Yくんも手紙に書いてくれました。

実習行くと道が一足しています。暑くて、改めてその大きさに驚いてビックリ!

水を流すことに最初は驚きながらも楽しんでいました。せつせつと流れていく様子を見てみんなの表情も変化してきていました。水が流れていく様子を見てみんなの表情も変化してきていました。

Yくん、ジワジワの入れ方を試してみたら、砂の山が崩れてしまいました。お水が流れていく様子を見てみんなの表情も変化してきていました。水が流れていく様子を見てみんなの表情も変化してきていました。

砂の山の頂上に、細い道を作っていただきました。Rくん、Yくんも手紙に書いてくれました。

実習行くと道が一足しています。暑くて、改めてその大きさに驚いてビックリ!

水を流すことに最初は驚きながらも楽しんでいました。せつせつと流れていく様子を見てみんなの表情も変化してきていました。水が流れていく様子を見てみんなの表情も変化してきていました。

Yくん、ジワジワの入れ方を試してみたら、砂の山が崩れてしまいました。お水が流れていく様子を見てみんなの表情も変化してきていました。水が流れていく様子を見てみんなの表情も変化してきていました。

園生活における学びや育ちの可視化

① 年少 砂場あそびの事例

② 年長 実った夏みかんの事例

どうやって採ろうかな? (1/11)

園庭の池の上に、夏みかんが1つ実っており、池の中で収穫を試みる子どもたちがいきました。

(保育者がフォローし、安全を確認しながら行いました。)

手で伸ばしても、みかんまで手が届きません。

そこに、あか娘のめんがやってきて、「僕の利なら、このみかんを切れるよ」と利を差し出します。

園庭でつばを作ったお気に入りの利をもらい置くと、早速試す子どもたち。しかし、収穫することはできず...

経験や学びの共有

④ 年長 ハンバーガーごっこの事例

食べられるかな? (10/17・18)

ドキドキしながら、中食店に調理をお願いすることにしました。

【10月17日】結果を聞いていただくことに。

ドキドキしながら、中食店に調理をお願いすることにしました。

【10月17日】結果を聞いていただくことに。

ドキドキしながら、中食店に調理をお願いすることにしました。

【10月17日】結果を聞いていただくことに。

先日収穫したカボチャ。さあ、中身はどうなっているのでしょうか? 「売っているものより小さいから、食べられないのでは?」「中身がスカスカかもしれない?」ドキドキの表情を浮かべる子どもたちと一緒に、中身を確認してみることになりました。

経験や学びの共有

③ 年長 育てたかぼちゃの事例

④ 年長 ハンバーガーごっこの事例

店舗準備スタート! (12/7)

マクドナルドの店内におもちゃを置いていよいよハンバーガーごっこスタートに準備が整いました。

お店のレイアウトをみて、店舗準備スタート! マウも頑張ります。

いらっしやいませ! (12/14)

いよいよ、マクドナルドの店舗が、開店しました!

お店のレイアウトをみて、店舗準備スタート! マウも頑張ります。

マクドナルドの店内におもちゃを置いていよいよハンバーガーごっこスタートに準備が整いました。

お店のレイアウトをみて、店舗準備スタート! マウも頑張ります。



④ 年長 ハンバーガーごっこの事例

いろいろな役割がある中で、友達と声をかけあって働ける家が印象的です。

この日、Hくんの身長よりも高く積み上がり、大喜びでした!

マクドナルドごっこが再開し、今度は福祉館に場所を移して開店しています。本番にマクドナルドに行って、マクドナルドのグッズを買って帰ってきた子がいました。

お休みの間にも、マクドナルドで遊ぶなら、必要な材料や作り方も考えてきてくれた子が多く、さらにパワーアップしています。

以前は特別にならなかった友達も、今回は店員さんの仲間入り! 一緒に楽しんでいて、新たに興味をもって仲間に入るチャンスにもなっています。

仲間やアイテムが増えても変わらない、「ハンバーガー—1!」のラメメン屋さんのようなフレーズや、役割を分けてすすめている、バックヤードの様子もみていると、そこが楽しくて、続けて楽しんでいるのだな、とほほえましくなります。

3学期は、お楽しみや修了に向けた取り組みもあります。

実践事例 補完的活用

4. 実践事例 (2) タブレット 端末の補完的活 用例

すごい雨だね...

本日はすごい雨でしたね。子どもたちにとっても、とても印象的な天気だったようです。身支度を終えると、窓から外をじっと眺めていたA君。「すごい雨だね...」とボツリ。「台風の雨はすごいだね」と話をしていると、「台風には赤いところと青いところがあって、赤いところが強い雨の降る場所なんだよ」と教えてくれました。どうやら、台風を天気図で見たときのことようです。身近な事象にも疑問や興味を感じる素直な感性に、感動しました。



そんな話を聞いていたBちゃんが「赤ってどういうこと？」と疑問を持ったようです。早速iPadを使って、台風の様子を調べてみることにしました。「東京はここだから、まだ青いね」とじっくり見ている子どもたち。天気図を動かしてみると、台風が今後東京に近づいてきます！



衣通にあえてもらいつつ、作り手の中...
（園内をめぐり、終も戻りました！スリッパを脱いだのですが、コンシンの床を汚すことができました）



お！釣れたようです！
「やった！」と竿をひいて、高遠と喜びを分かち合っていました。身近な「木たまり」も子どもたちにかかること、素直に広がっていくのですね。ぜひご家庭でも、子どもたちの世界観と一緒に楽しんでみてくださいね。

調べたことを
体験を通して
学びを深める



「かいこ」ってなあに？

夏休みの間、みどりけ丘幼稚園に新しい仲間が加りました。家政大学卒業生の二姉で春夏業を営む方からいただいた「お蚕さん」。夏休み中に登園していた子どもたちが、餌は何か？
どうして風に大きくなるのかな？
と疑問とらめっこしながら、育ててくれていました。そんなお蚕さんが作った繭を、やま組さんと観察してみました。



糸が紡げる？！

昨日見た繭に、興味津々な子どもたち。調べていくうちに、繭の中では蚕がサナギになり成虫の準備中であることを知りました。「どんな大人（成虫）が出てくるんだろう？」
「中では何が起こっているのだろうか？」
次々と疑問が生えてくる子どもたち。そこで、iPadを使って、実際に繭から出てくるところや、成虫が動いている子を観てみることにしました。



経験したことを
調べ、体験につなげる

何が出てくるでしょうか...



中には、死んでしまったサナギがいました。「死んじゃったから、色が変わったんだね」と納得の表情。と同時に、白い繭には生きているサナギがいる！と期待感が高まってきました。さて次は、実際に糸を紡いでみます。どのような糸が紡げるのか、ワクワクしています。



経験したことを
調べたり、振り返ったりして、
次の体験につなげる。

結果

5. 結果 ICT活用に対する保護者の意識調査

- 調査対象者 園児の保護者（各家庭1名）
- 調査方法 オンライン調査（Google Form）
- 調査実施期間 2023年12月
 - ※有効回答回収率 110名 [93.2%]
 - （回答者の内訳 母親108名 [92.7%] 父親8名[7.3%] 年少組38名 年中組38名 年長組34名）
- 調査内容
 - I.回答者の属性（選択式）
 - II.子どもの家庭でのデジタルメディア利用についての保護者の考え（選択式）
 - III.園のICT活用に対する保護者の意識（選択式）
 - IV.園が保育や保護者の連絡等にICT活用を進めることについての意見・考え（自由記述）

コード	件数	表 ICTの活用に関する意見・考え	特徴的なコメント
コード01:	18件	園でのICT活用に関する肯定的な提案をしている。	<p>「コドモンで子どもたちの様子がわかるのはとてもありがたいです！先生の負担にならない程度に日々様子を載せていただくと嬉しいです。できれば日々の様子と、連絡事項がわかれていたら助かります。（コドモンで配信された連絡事項がどこにあるかわからなくなることがあるので、コドモンに検索機能や、何かマークをつけられる機能があればいいなと思っています）</p> <p>家庭でタブレットなどに触れる機会も多いので自由に体を動かして遊んで欲しいと思います！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園との連絡がコドモンでできるようになったことで以前よりもとてもスムーズになったように思います。 またストーリーパークやコドモンを通じて子供や園の様子を逐一知ることができ、子どもとの会話も弾むようになった気がします。夫と連絡を共有しやすいことも有り難いです。 欲を言えば今後はもの連絡等もペーパーレス化していただくと嬉しいです。
コード02:	48件	園でのICT活用に関する肯定的なコメント。	<ul style="list-style-type: none"> ・写真があることで保育の様子がよく分かるので助かります。 こどもとも写真があることで共有しやすいです。 ・園で子供の様子をコドモンで送っていただき、楽しく拝見させていただいております。ありがとうございます。ICT活用を進めることで先生方のご負担にならないかが気になっております。今まで通りのやり方で大変満足しています。 ・コドモンやストーリーパークなどで先生方が子どもたちの様子や活動をわかりやすくしてくださるので我が子とのコミュニケーションも増えてとても感謝しています。
コード03:	28件	園でのICT活用に関する肯定的なコメントであるが、同時に問題点も指摘している。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とのコミュニケーションにICTを活用していくのは賛成ですが、保育ではICTを用いず友達と体を動かし、自然と関わり実験を積むことを大事にして頂きたいです。 ・大人は、デジタルで配信していただくと、外出先でもスマホで確認できるのでとても助かります。子どもについては、核家族でどうしても相手ができない時間にデジタルを見せてしまっていますが、自然と関わり実験を積むことを大事にして感じています。園でも今後とも大人にはデジタル、子どもにはアナログを基本にしていただけたら嬉しいです。
コード04:	3件	園でのICT活用に関する懐疑的である。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への連絡については、とても賛成です。ストーリーパークがあったことで年少年中の頃よりも幼稚園での普段の活動の様子がわかりやすく、子どもと「幼稚園でこんなことしたんだね」[〇〇をしている時はどんなことを考えてたの?]といった会話を楽しむことができました。週末や行事のあとに先生が配信してくださるストーリーをいつも楽しみにしています。 保育中の利用に関しては、ICTをどの程度活用するのかが分からないので答えにくいですが、使い方によって賛成でも反対でもあります。生活発表会の時に自分たちの演技を客観視するために録画をしてすぐに確認する使い方はとても良いと思いました。 そうした「手段」としての使い方は賛成ですが、タブレット視認が「目的」になるような使い方であれば反対です。（上記の質問にあった動画アプリ・絵本アプリ・学習アプリなど） また、幼稚園では実験を大切にしてもらいたいと考えています。たとえば何かを調べる時にインターネットを使えば簡単に答えがわかりますが、幼稚園では本や図鑑を見たり先生や友達と一緒に相談したり想像してみたいです。その結果と正解に辿り着かなかったとしても、実際に頭を使って考えた行動することが将来経験として生きてくると考えています。
コード05:	3件	園でのICT活用に関する否定的である。	<p>コドモンやストーリーパークなどの保護者への連絡は構わないが、子どもの保育にてICTを取り入れることは反対です。子どもに使用させたくありません。すでにタブレットやスマホなどを使用する子どもの低年齢化が心配されています。小さい画面を見て1人だけで作業することは幼稚園の年齢では必要ないと思います。するならば小学校に行くからでもよいです。まわりに遅れをとるなどと焦る必要はありません。子ども時代にはICTよりももっと大切な学びが経験があり、みどりが丘では、それを実践しているのよと思っています。</p>

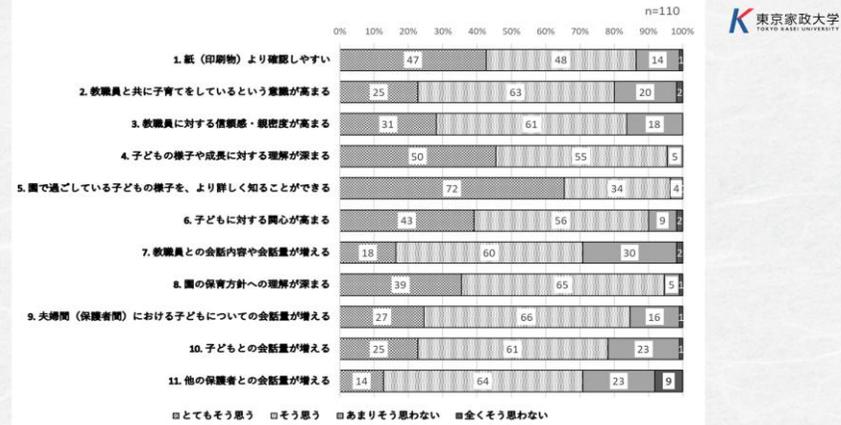


図1 園でのICT活用に対する保護者の意識

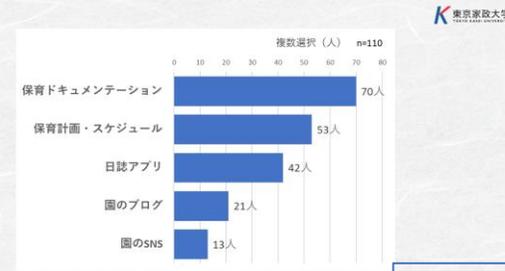


図2 園でもっと進めたいICT活用

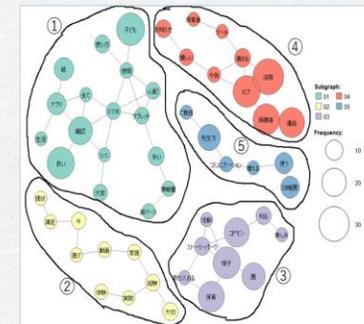


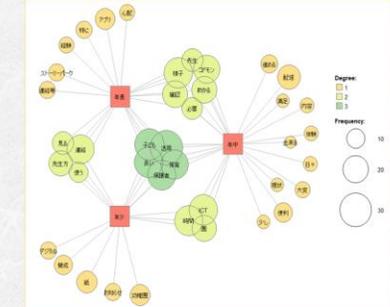
図3 保護者の回答の特徴（総合）

- ① 配信には肯定しつつも子どもの使用は心配
- ② 実験を重視する保育を希望
- ③ 配信の良さ（保育ドキュメンテーション）
- ④ 配信の利便性（主に園情報）
- ⑤ コミュニケーション促進

テキストマイニング (KHCoder 3.0) Jaccard係数

図4 保護者の回答の特徴（年長・年中・年少）

ICTの活用、主に園からの配信に関しては概ねよい、という共通するワードがみられたが、年中、年長の保護者からは、保育実践においては子どもの実験を望む声が多く見られた。



6. 考察

(1) 保育ドキュメンテーションにおけるICTの活用とその効果

① 閲覧のしやすさと利便性

園での掲示形式や冊子保存形式などの保育ドキュメンテーションと比べて確認しやすい。

② コミュニケーションの促進

「保護者と子ども間、保護者と教職員間、保護者間」のコミュニケーション促進に寄与している。

③ 子ども理解の深まり

子どもへの関心・子どもの様子や成長に対する理解の深まり

→ 保護者の子ども理解の促進や教職員に対する肯定的な心情の醸成にも影響を及ぼした。

④ 職員への信頼感・共に子育てをしている意識の高まりと相互的な関わり

相互交流機能・ICT上での交流と直接的な交流のバランスを大切にしたいとした意見

→ 園からの一方通行のお知らせで完結するのではなく、情報をもとに園との相互的な関わりを求めている。

20



(2) 情報機器の補完的活用について

- 保育中に子どもがICTを活用することに関しては、懐疑的あるいは否定的な立場をとる保護者の意見が多かった。

保護者は、これからの時代のICTの重要性を理解しつつも、幼児期の子どもは、豊かな実体験から学ぶことを重視している傾向が見られた。またICTの利便性や情報は幼児にとっては刺激が強く、ICTへの依存や視力低下などを懸念する意見も聞かれた。

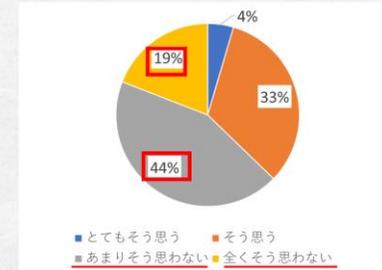


図5. お子さまが、就学前にタブレット端末、パソコンやインターネットなどにふれることは必要であると考えますか。(n=110)

21

7. 今後の課題

(1) 「保育の可視化」から「学びの可視化」へ

保護者が子どもの園生活をより知ることができるようになる「保育の可視化」の効果は進んだといえる。一方で「保育計画・スケジュール」のICT化を望む割合の高さや、自由記述において子どもの様子を「楽しい」という言葉に集約する傾向から、子どもの遊びを通じた学びや保育者の援助の意図を共有・理解する効果までには至っていないことがうかがえる。

(2) 職員同士の連携

園へのICTの導入促進は、業務改善ツールとしての利便性や保護者との連携にとどまらず、保育者間の連携にも活用が期待される。

今後はそうした視点からも検討を重ね、保育の質の向上に資するICTの活用のあり方について考えたい。

22